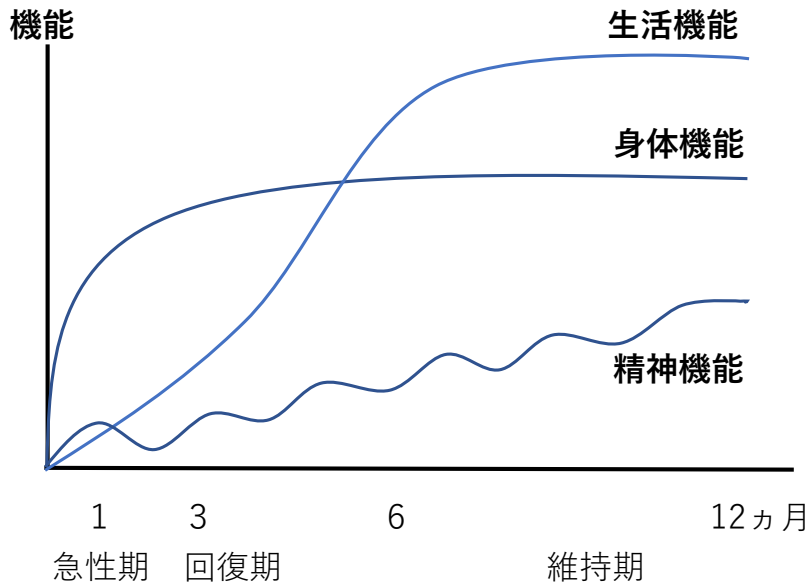


2-2. ICF モデルから考えるリハビリ

『頑張る』『戦う』リハビリではなく『楽しむリハビリ』が必要になります。

脳卒中の機能回復



脳卒中で考えると発症後 1 カ月の急性期に身体機能に対するリハビリで症状が改善していきませんが、1 カ月を過ぎると身体機能の上限がみえてきてそれから残った障害の中で日常生活をどのようにしていこうかというリハビリに移行します。

半年程で生活機能も上限に達します。発症した時から年の単位で精神機能は改善していきます。精神機能は一日一日上がっては下がっての繰り返しで、昨日と今日を比べるとかわっていない・むしろ悪くなっていることの方が多いです。けれど1 カ月・半年の単位で比較すると『その頃よりはよくなっている』と感じます。『頑張る』『戦う』リハビリは発症～1 カ月・3 カ月程度、急性期から回復期の前半までで、その後回復期後半から維持期、生活期は『たのしむ』『付き合う』リハビリが必要です。

ICIDH モデルでは障害をハンデととらえ、『頑張る』こと『戦う』こと、そして障害を克服していくことが目標でした。しかし、ICF モデルでは障害と付き合いながら生きていくことを目標としています。私たちにできることは環境因子を調整する、設定することで活動・参加する機会を作っていくこと、その結果として心身機能を改善させて健康でいること・健康になることを支援することです。

ICFモデルから考える健康

